自己評価総括

令和元年度　尚絅中学・高等学校 学校評価

学校教育目標	
1	知と徳を兼ね備え、社会に貢献できる自立心豊かな近代女性の育成を目指す学校
2	尚絅で学んで良かったと生徒・卒業生・保護者が真に思う学校
3	地域で存在感のある学校

重点目標	
1	特色ある教育の確立
2	教育の質向上
3	生徒支援の確立
4	地域貢献の充実
5	学習意欲あふれる生徒の確保

自己評価総括のランクは、ＡＢＣの３段階とし、次頁以降の「自己評価」で２/３以上Ａ評価となった重点項目を「Ａ」ランク、２/３以上がＡまたはＢ評価を「Ｂ」ランク、それ以外を「Ｃ」ランクとしている。

重点目標に対する自己評価総括

1	特色ある教育の確立	B	本校の特色ある教育を確立し追求し続ける姿勢は何よりも重要なことであると共に、今後の変化していく教育界において、教師一人ひとりが研究していかなければならない重要課題であると認識している。現在、グローバル教育や中高大連携をいかに深めていくかは本校の特色ある教育の確立に結びつくと考え取り組んでいるところである。今後は、更に、具体的な課題を可視化して深めていく必要がある。
2	教育の質向上	B	新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」の授業の確立や、ICT教育の充実を図り、教科の本質を踏まえた授業改善、特にアクテイブラーニングや課題探求などを中心に教科横断による授業研究を実践していく必要がある。今年度は、定期的に校内で行う研修会の時間を設けて取り組んできたが、次年度はこの取り組みをより多くの教師が具体的に授業等で実践していきたい。
3	生徒支援の確立	A	学校行事や部活動、生徒会活動などを通して多くの生徒の活躍が見られた。しかしその一方で、様々な問題を抱えた生徒の数も少なくなく、カウンセラーを中心にクラス担任や学年主任、コース主任との連携を図り、早期の問題解決に努めた。また、経済的支援においては、学園特待生制度や奨学金、また、花桜会の支援や育友会の協力により充実した学校生活を送ることができた。
4	地域貢献の充実	A	生徒会を中心に、ボランティア活動や対外的な部活動の活躍、また、公立小中学校を始め、地域の塾やクラブチームなどへ学園施設の提供を広めることができ、積極的な地域との連携を深めることが出来た。今後もあらゆる機会を利用して地域貢献に努めていきたい。
5	学習意欲あふれる生徒の確保	B	広報活動の充実を図るために、今年度は組織改革を行い、生徒広報部や保護者広報部からも協力を得ることが出来た。しかし、まだ、本校の良さを十分にアピールできたとは言えない。特に、中高一貫コースでは、英語の実績や特色ある教育がなされているにも関わらず十分な生徒獲得が出来ていない点が今後の課題となる。

自己評価

令和元年度　尚絅中学・高等学校 学校評価

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
特色ある教育の確立	人間教育プログラムの充実	外部人材・事業の活用	外部の専門家の活用により授業以外の専門的知識を深める。	A	各部署の計画に沿って目的別の講話、研修等を実施した。
		グローバル教育の充実	留学生との交流や外部団体との連携により国際感覚を養う。	B	留学生との交流や外部団体との連携により視野を広げる機会を得た。
		礼法教育の確立	学校の諸活動を通して学んだ礼儀作法を日常生活に役立てる。	B	礼法委員会を中心に意識向上を図ることができ、あいさつ運動を継続実施する。
		諸活動のPDCAサイクルの確立	教育の柱となる各部の活動を集約し、計画を策定する。	B	年間計画に則り実施した。
	魅力ある授業の確立	教科指導力の向上	教科指導力向上の為、研修会参加や外部講師の助言を仰ぐ。	B	教務部を中心に計画的に実施したが、次年度はさらに検討を重ねる。
		授業改善の確立	生徒の魅力ある授業を提供するために研究授業等の充実を図る。	B	授業研究を重ねたが課題解決には至っておらず、次年度も継続する。
		ＩＣＴ教育の充実	ＩＣＴの利活用により生徒に様々な情報を提供する。	B	より効果的な活用を組織的に行う。
	進路指導の充実	進路指導力の向上	進路指導部を中心に入試改革の研究を行い、指導力向上を目指す。	B	数々の研修会に参加し校内で復講を行ったが、向上までには至らなかった。
		進路研修会の充実	外部研修会参加、ＡＬ、新入試制度の対策を行う。	B	進路指導部を中心に計画的に行った。
		進路実績の向上	進路実績向上の為、課外やゼミの充実を図る。	B	コースごとに新しい分野に挑戦し、少しずつ成果が見られた。
		課外授業の確立	各コースの進路希望に応じた内容の充実に努める。	B	習熟度別の課外や進路別特別時間割を組んで実施した。
		個別指導の強化	各種検定試験合格、小論文指導や個人指導を実施する。	B	検定試験対策や小論文指導などの個別指導を徹底した。
		進路指導体制の研究と実践	講演会や進路指導情報誌の発行、また、多くの情報を提供する。	B	講演会、情報誌等、計画通り実施した。
	各コースの特色つくり	各コースの教育内容の研究と実践	コースの特色を活かし、より効果の高い編成を検討する。	B	コース別に取り組んだが、多様化される入試に向けて検討が必要である。
		特色あるカリキュラム・選抜クラスの充実	最新の情報収集を行い、カリキュラム委員会で検討、策定する。	C	十分な検討に至っておらず、今後、教務部を中心に行う。
		各種検定試験の充実	各種検定試験を推進し、取得資格を活かした進路実現を奨励する。	A	各教科を中心に計画的に実施し、成果が見られた。
	中高大連携の強化	内部進学の達成	内部進学のメリットやより多くの情報を提供する。	B	メリットが明確になり内部進学の説明等に活かせた。
		高大進学連絡会の充実	高大相互の情報を共有し、内部進学者の進路達成の一助とする。	B	高大相互の情報共有ができ、今後も積極的に行う。
		中高大連携事業・授業の確立	総合学園としての特色を活かし生徒の進路志望の実現を図る。	B	学部・学科説明や、大学の先生の授業等も計画的に行った。
		広報活動の連携強化	中高だけでなく大学との連携による一貫教育の良さを強化する。	A	入試センターとの情報交換を通して広報活動に活かした。
教育の質向上	主体的・対話的で深い学びの授業の確立	教育の特質を活かした取り組みの研究と実践	教科会の充実を図り、ＡＬ、Classi等を利用した取り組みを実践する。	B	研修会等に参加し、教科会で検討した。
		言語能力の確実な育成	プレゼンやディベート等を通して言語能力の育成をする。	B	一貫コースや部活動で実施し、成果を得た。
		教科の横断的な学習の充実	他教科とのコラボを図りながらより広い知識を習得する。	B	全職員による授業研究を行い、指導力向上に役立てた。
	カリキュラム・マネジメントの研究と取り組み	社会に開かれた教育課程の研究	新学習指導要領に則り、地域をフィールドとした研究を推進する。	C	情報収集をして検討会を行ったが、研究までには至っていない。
		理数教育の充実	論理的に問題解決を図る能力を育成する。	B	県の研修会に参加して検討をしたが、次年度も継続する。
		伝統や文化に関する教育の充実	伝統文化の知識・技術及び考え方を学び必要な資質の育成を行う。	B	授業を通して必要な知識・技術等を学んだ。
		キャリア教育の充実	学校と社会の接続を考え、身につける能力・資質を育成する。	B	ベネッセ教材等を使い進路研究を行った。

自己評価

令和元年度　尚絅中学・高等学校 学校評価

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
生徒支援の確立	奨学生制度・表彰制度等の活用	制度を活用した生徒の支援	学力・特技に秀でた生徒を支援する。	B	広報部、部活動顧問を中心に訪問活動を継続し優秀な生徒の獲得に努める。
	課外活動の充実	生徒会活動の充実	生徒会執行部を中心に学校行事等の企画・運営を推進する。	A	生徒総会など新たに着手したが休校により実施できなかったが、その他は、充実した活動を行った。
		部活動の充実	部活動を通し、心身の調和がとれた人間教育の一環を目指す。	A	運動部・文化部共に各大会だけでなく、イベントでも著しく活躍した。
		ボランティア活動の強化	活動を通して奉仕の精神を育成し、地域貢献に資する。	A	熊本城マラソンを始め多くの生徒が積極的に参加し地域に貢献した。
		リーダー養成の活性化	研修を重ねながら、リーダーとしての自覚を促し養成を図る。	B	定例会、委員会でリーダーが主体的に取り組み校内外の活動の充実に努めた。
	教育相談の充実	生徒支援体制の確立	生徒理解を深めるため、情報共有を充実させる。	A	環境保健部を中心に学年部や部活動顧問が、寮生についての早期問題解決に取り組んだ。
		カウンセリングの充実	スクールカウンセラーを中心に問題の早期解決を図る。	A	各担当者を中心に連絡を密にして取り組んだ。
		外部組織・人的支援の活用	県の支援事業等を活用しながら問題解決に当たる。	A	特別支援相談員やＳＳＷを活用した支援を行い、次年度も継続する。
	育友会・後援会・同窓会との連携の確立	学校行事での連携強化	学校との連携を図り、学校行事の一層の充実に努める。	A	文化祭・体育祭・各コンサート等に協力を得て充実した催しができた。
		保護者会の充実	学校と保護者の協働による教育体制を充実させる。	B	外部講師による進路講話や、保護者会で共に授業参観を行い好評を得た。
		同窓会・後援会総会等への出席の確立	学校と連携を推進し、協働体制を確立する。	A	管理職が総会及び地区懇親会に出席し、現況報告と会員との親睦に努めた。
地域貢献の充実	地域活動の支援	部活動等の合同練習会開催の確立	他校や他団体との繋がりを持ち、生徒の活動の場を広げる。	B	長期休暇などを利用して、練成会や合宿を行った。
		ボランティア活動の充実	地域に密着した活動を通して貢献する姿勢を養う。	A	地域の夏祭りや本校周辺の清掃等のボランテイア活動を行った。
	学校主催事業の充実	本校主催の各種大会の開催	部活動の活性化と各種大会を通して広報活動の一助とする。	A	英語暗唱大会や尚絅杯ソフトテニス大会等を実施した。
学習意欲あふれる生徒の確保	広報活動の充実	活動内容の再検討	より効果的な活動計画を策定し実施する。	B	体験型オープンスクール実施など一部内容の変更をした。
		広報部員のスキルアップ	外部講師による研修を行い、実践に役立てる。	B	県外の学校視察や研修会を行い、本校の活動に役立てた。
		ホームページの充実	迅速に内容をアップし広報活動の一助とする。	B	部活動や行事のアップは迅速に行ったが内容についてはまだ十分ではない。
		全職員対象研修会の確立	マナーなどの指導を徹底し職員の広報力の向上を目指す。	B	広報部員以外にも、全職員により多くの情報を提供し、今後に役立てる。
		広報部の組織改革の可視化	計画の構築、実践攻略等を中心に全職員の動きを可視化する。	B	職員以外に保護者・生徒の広報部と共に協力して活動した。
		入試内容の検討	受験生獲得のため問題内容の検討を充実させる。	B	教科ごとに入試問題の内容を検討し、受験生確保にも繋げる。
		小学校・中学校・学習塾・個別訪問活動の充実	広報の活動区域を広げ積極的に訪問活動を行う。	B	入試アドバイザーの協力を得て、塾やクラブチーム等への訪問を実施した。
	入試制度の改革と訪問の強化	制度の周知徹底	入試アドバイザーと共に、小中学校、塾で丁寧な説明を行う。	B	公立小中学校だけでなく様々な機会を利用して丁寧な説明を心がけた。
		特待生制度を活用した学力・特技に優れた生徒獲得の確立	学力・特技に秀でた生徒を獲得し、本校生徒の牽引者を育成する。	B	広報部、部活動顧問や入試アドバイザーの協力のもと実施した。
		指導者との連携の強化	対外試合や習い事教室等の場を利用して情報を得る。	B	本校の職員と連携を取りながら連携を深めた。
		入試制度の検討と充実	特待生制度の見直しを行い生徒獲得に繋がるように取り組む。	B	一部見直しを行い、都度の再設計を検討しながら次年度に役立てる。
	小・中学生対象広報活動の強化	本校主催の大会等の充実	地域の諸活動の支援を行うと共に部活動の活性化を図る。	A	文化部・運動部共に計画通り実施した。
		入試改革の達成	中学入試を中心に入試科目を検討し、本校の特色を打ち出す。	B	中学入試に英語を取り入れ本校の特色の一つとして今後も広報に力を入れる。
		小学校・英語塾等の訪問強化	本校の英語教育の成果や一貫教育の利点を広める。	B	学校説明会などを利用して一貫コースや英語教育の特色をＰＲした。

関係者評価

令和元年度　尚絅中学・高等学校 学校評価

学校生活に関して「生徒」「保護者」にアンケートを実施しました。

○：よくあてはまる・ややあてはまる　　●：あまりあてはまらない・全くあてはまらない

生徒による評価

		○	●
1	尚絅に入学して良かった	○ 77%	● 20%
2	友人と仲良く楽しい学校生活を送っている	○ 91%	● 6%
3	学力向上を目指して積極的に取り組んでいる	○ 79%	● 17%
4	クラスマッチ・体育祭・文化祭などの行事が充実している	○ 74%	● 21%
5	しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる	○ 87%	● 8%
6	部活動が盛んである	○ 88%	● 7%
7	施設・設備が充実している	○ 97%	● 1%
8	掃除など環境美化に取り組んでいる	○ 85%	● 6%
9	先生や来校者への挨拶や礼儀作法の実践を心がけている	○ 91%	● 4%

生徒による評価の総括

「②友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」という割合が高いわりには、「①尚絅に入学して良かった」と思っている生徒の割合が昨年度よりも若干増加しているとはいえ８割に満たない。その原因の１つは、「③学力向上を目指して積極的に取り組んでいる」項目の否定的な評価が増加していることだけでなく、部活動やクラス運営においても教師と生徒間の人間関係を構築することが難しくなっている現状が考えられる。生徒間だけでなく、教師と保護者、また教師間に於いても、どのようにコミュニケーションをとればよいかを考え、全職員で改善に向けた努力が必要である。このアンケート結果を真摯に受け止め、生徒が「尚絅に行ってよかった」保護者が「尚絅にやってよかった」卒業生が「尚絅を卒業してよかった」と思える学校作りに努力したい。

保護者による評価

		○	●
1	尚絅に入学させて良かったと思う	○ 90%	● 7%
2	友人と仲良く楽しい学校生活をすごしていると思う	○ 90%	● 8%
3	学力向上を目指して積極的に取り組んでいる	○ 72%	● 25%
4	クラスマッチ・体育祭・文化祭などの行事が充実している	○ 79%	● 14%
5	しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる	○ 88%	● 5%
6	部活動が盛んである	○ 85%	● 5%
7	進路指導が適切に行われている	○ 77%	● 14%
8	施設・設備が充実している	○ 97%	● 2%
9	掃除など環境美化に取り組んでいる	○ 82%	● 6%

保護者による評価の総括

生徒評価とは逆に保護者による評価では「①尚絅に入学させて良かったと思う」項目が生徒が70%台に対して昨年度同様に90%と高い。しかし《学校生活や指導について》の３項目「③学力向上を目指して積極的に取り組んでいる」「④クラスマッチ・体育祭・文化祭などの学校行事が充実している」「⑨掃除など環境美化に取り組んでいる」においては全ての評価が下がっている。③については教師の指導力不足があげられる他、④、⑨は生徒にとっては大事な教育活動の一つでもあり、今後も注力していく。各部署において昨年度の反省を踏まえて、具体的な対策を考えていきたい。

学校評価委員（保護者の代表・同窓生の代表）に評価をお願いしました。

- 社会的評価を上げるためには、具体的な結果を出す必要がある。進学実績、部活動結果などを見ると先生方と生徒の努力は確実に実を結んでいると思う。「尚絅に来てよかった」と思える学校は先生方の温かいご指導の賜物と感謝している。
- 礼法教育は少しづつ根付いているように思う。日々の生活の中での礼法教育の指導を続けていくことが、社会的にも評価に繋がっていくのではないかと思う。
- ICT教育の充実は、今後、重要になってくる。特に、教育機器の充実やICT教育の利活用に必要な費用をいかに学校が予算化していくか、また、私学なら尚更、どこにお金をかけるかは、重要なことであると思う。生徒の学習環境をいかに素晴らしいものにしていくかは、今後の学校選びのポイントにも繋がるのではないか。
- 学校を偏差値だけで選ぶのではなく、どのような人間を育てたいのかによって選んでもらえるような学校作りになるといいと思う。そのためにも教育の質向上は重要であり、生徒のために先生方はどんどん新しいことにチャレンジしてほしいと願っている。
- 芸術コースなどの文化方面の支援はないように思うが、女子校には希望の多い窓口ではないか。難しいかもしれないが、今後検討していただけると特色の一つになるのではないかと思う。

総合評価・課題等　令和元年度　尚絅中学・高等学校 学校評価

■総合評価

① 特色ある教育の確立

本校の特色ある教育を確立するための一つの取り組みとして、生徒の具体的な将来設計の一助となるような講演会の実施や生徒にプレゼンの機会を与えるため、オーストラリア語学研修や韓国の姉妹校訪問の内容を全校生徒に披露するなどの取り組みを行い、従来の指導方法を少しずつ変えている途中である。しかし、魅力ある授業を生徒に提供するための取り組みは、まだ、道半ばである。講義式の授業から抜けきらず、新学習指導要領を読み深めた取り組みを一人ひとりの教師が研究していかなければならないと考えている。また、中高大連携の強化においては、進路指導部長を中心に大学と少しずつ連携を深め、新制度も導入され、改善されつつある。

② 教育の質向上

新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」の授業の確立は、教科教育が大事にしてきたそれぞれの教科の本質を踏まえたものでなければならない。また、新しい指導方法がここ数年導入されている中、従来の指導方法を変えていかなければならないことも事実である。また、教科の本質を踏まえた改善と、教科横断による授業研究などは生徒の思考力、表現力にも大きな影響を与える重要な部分である。それゆえ、自分の専門教科だけではなく、他教科の教師の目による授業への提言、コラボレーションの力が今後必要になることを踏まえ、各個人の教科研究が必須であり、その取り組みにより今後の教育の質向上へと繋がると考えている。カリキュラム・マネジメントの研究においては、令和元年度より課題探求に取り組み始めたところである。今後はSDGsとの繋がりを深め研究していく予定である。

③ 生徒支援の確立

課外活動の充実においては、部活動やボランテイア活動で生徒たちの活躍が随所に見られた。また、様々な問題を抱える生徒が増加する中で専門のカウンセラーを配置して、クラス担任を中心として保護者や部活顧問との連携を深め問題解決に取り組んでいる。ドーミー生についてもカウンセラーのきめ細かいケアと環境保健部の連携により早めの対処を心がけている。学校行事や保護者会の充実を図るため、出来るだけ迅速にホームページに情報を載せ、協力を求めた。現役の保護者だけでなく卒業生の保護者による協力も得ることができ、同窓会による支援も広がり生徒支援のために多くの援助を頂いている。

④ 地域貢献の充実

対外的な部活動の活躍や様々な地域のイベントへのボランテイア活動の積極的な参加など地域貢献への意識向上は高まった。例年行われている熊本城マラソンには１００名の生徒がボランティアとして参加した。ボランティア活動も昨年度とは少し異なる内容に広げていき、全校生徒への働きかけも行った。また、本校主催の大会だけでなく、アリーナを開放し塾の要望によりEnglish Campの会場として提供したり、各種大会の主催者からの要請に応じて、１０階ホール等も提供した。今後もあらゆる機会を利用して本校の施設を提供し、また、必要に応じて生徒の協力にも対処していきたい。

⑤ 学習意欲あふれる生徒の確保

広報活動の充実を図るため、広報部の組織改革を行い、広報部員を始め保護者や生徒広報部と連携を取りながら目標に向かって確実な取り組みを行った。女子の数が減少する中、塾や個別訪問に力を入れ今年度は何とか目標数値に近い生徒を確保することができた。しかし、まだ、本校の良さを十分にアピールできておらず、特に、小学校での英語教育の熱が高まっている割には、受験者数の確保ができていない。次年度は、入試アドバイザーを中心にどのような展開ができるのかを検討していきたい。また、特進コースの牽引力となるSS特待生の獲得ができず、今後の進路実績にもつながる重要なところでもあり、早急な対策を検討する。

■令和２年度への課題・改善方法

① 新学習指導要領の改訂に伴い、「教育の質向上」が求められている。特に、授業改善は生徒の進路保障にも繋がる大事な領域でもある。毎年、授業改善が課題として挙げられるが、生徒を満足させる授業に至っていない理由は、教師個人の自己分析力との弱さと教科専門チームとして、それぞれの個性を尊重しながら、より良い授業について全員で模索する姿勢が不足していると考えている。また、「中高大連携」においては内部進学者における特典を始め、広報関係においても連携が少しずつ強くなってきたと感じている。今後は、更に、オープンスクールやナイトスクールなどにおいても連携しながら生徒獲得にもつなげていきたい。

② 「コロナウィルスの感染拡大防止」により長期休校を余儀なくされ、今まで以上にICT教育の必要性が叫ばれるようになった。本校では、Classiを利用してメール配信や教科ごとの課題配信を行ったが、動画や遠隔授業等も今後検討及び研修を重ねていかなければならない。生徒の家庭でのネット環境も十分に整備されていない中でどのように家庭学習に活用できるか、授業でどのような取り組みが出来るか等、今後の大きな課題となるが、定期的な研修を踏まえ、教科やLHRなどの公開授業を通して全教師が十分な活用ができるように取り組んでいきたい。